

理想の獣医師像 ～開業5年目に思うこと～

青木 紘[†] (長崎県獣医師会・平野町ペットクリニック)

「手術終了します、お疲れ様でした。ありがとうございました。」御指導いただいた近隣の諸先生方に御礼を言い、手術を終了した。後腹腔から骨盤腔内まで広がった腹腔内腫瘍は、手術を終えたとはいったものの大血管を巻き込んでおり完全切除はできず、排尿・排便障害の原因となっていた嚢胞の切除と、腫瘍の採材のみを実施し、閉腹をした。完全な敗北である。

先月で開業5年が過ぎた。カルテ数はある程度増え、春からの予防シーズンの繁忙が少し鬱になるようになってきたが、はたして自分は成長しているのだろうか。

私が小動物臨床獣医師を志したのは、ありきたりではあるが幼少期に飼っていた犬が亡くなったことがきっかけである。それは小学5年の時分であっただろうか、その想いは途切れることなく、大学に進学することとなった。入学後も小動物臨床獣医師への気持ちは変わることなく、研究室は小動物臨床に多く触れられる外科を迷うことなく選択した。そして卒業、一般開業医に就職、三つの病院での勤務医を経て、開業することとなる。元々実家が人医の開業医であり、実の兄も小動物開業獣医師であったため、思えば今まで開業を一つの目標にがむしゃらに進んできた気がしている。開業5年が経過し少し一段落したと感ぜられるような気がしていたが、はたして自分の目指す獣医師像はどこにあるのかと、今更になって考えるようになった。

幼少期に自分の犬を診察した獣医師さんに出会ってから、想えば様々な獣医師と出会ってきた。大学病院、勤務医、開業後の今まで、実の兄も含め、今想うのは皆それぞれ色があるように感じる。しかしながら、はたして今の自分に色はついているのであろうか…。

大学時代、外科学研究室に入りそこで活躍する教員は、もちろんスペシャリストであり、格好が良く、初めて実際の臨床現場に触れた学生にとっては、何でも治せるようにみえたものである。卒業し初めて勤務医となった千葉の病院は獣医師の数も多く、診断・治療のレベルも非常に高い病院であった。二つ目の東京の病院は、場所柄もあり大学病院などの二次診療施設が近隣にあったため、高次の治療が必要な症例は積極的に紹介をしていたが、それは患者の立場でベストな選択をとる考えに基

づいたものであり、院長の飼い主からの信頼は非常に厚く、そこもまた最善の治療を行っているものであった。三つ目の病院は、縁もゆかりも無い長崎での勤務となったが、東京時代とは真逆であり長崎は大学病院が近くに無いのである。必然的に、私が勤務した長崎の病院では高次治療も含めて、整形外科から眼科まで、非常にオールマイティに診療を行っていた。それはジェネラリストと呼ぶに相応しいものであった。また長崎は近隣の病院との繋がりが深いといった特徴があり、様々な先生方と出会うことになるが、皆がそれぞれ得意分野や専門性を持ち、それはCTやMRIの画像診断であったり、腫瘍疾患、整形外科、血液疾患や皮膚疾患であったりと、皆一様に色を持っているのである。また最近では近い世代の獣医師達にも刺激を受けることが多くなった。心臓を突き詰める先輩、眼科を突き詰める先輩、同期で大学の外科にいる獣医師達は嬉々として開胸手術の話をしている。最も身近な実の兄は一つの手術に特化しており、また兄として、獣医師として、経営者として、常に眼前に立ち続けている。いつの日か追いつき、追い越そうとは気張るものの、未だ達成することは叶ってはいない。幼少期に自分の飼い犬を診察した獣医師に対し治せなかったと感じた時に決意した自分の未来の獣医師像とは、今の自分が目指す理想の獣医師像とは、はたしてどのようなものだったのだろうか。

一日の診療が終わり、その日のカルテを持ち二階の自宅に戻る。家族は既に夕食を終えリビングでくつろぐな

青木 紘

—略 歴—

- 2004年 日本大学卒業
- 同 年 千葉県内動物病院勤務
- 2005年 東京都内動物病院勤務
- 2006年 長崎市たけがわ犬猫病院勤務
- 2008年 長崎市にて平野町ペットクリニック開業
- 現在に至る



[†] 連絡責任者：青木 紘 (平野町ペットクリニック)

か、一人晩酌をしながらカルテの記入を行う。積まれたその日のカルテは見るのも嫌になる。もはや午前中の診察の内容など思い出せないことも多々ある。ただ増えていくのはカルテの数と酒の量だけである。漠然と思い描いていた開業の仕事とは、勤務医時代のようにただ獣医学と向き合うだけとは大きく異なり、経営、経理、人事、その他獣医師会の雑務など、およそ獣医学とは関係ないことに追われ、また家庭のこともやらねばならず、今頭の中の獣医学が占める割合など2割も無い気がしている。しかしながら、今日の前で無邪気に遊んでいる娘が、今の自分より年上になるまでの期間返さなければいけない程の莫大な借金を抱え、そのプレッシャーに押し潰されてしまいそうである。

もしこのまま経営が安定しなければ、もしこの先どこかで病院の存続に関わるくらいの大きな失敗をしてしまったとしたらば、もし仕事が継続できないほどの大病を自分が患ってしまったらば、今日の前にいるこの家族は…。

酒のグラスを置き、ふとつきっぱなしのテレビに目を向ける。テレビの中で毒舌芸人がアイドルに向かって叫んでいる。「今日の前にある仕事を一生懸命しろ。」そうだ、今はそれしかない。まだ獣医師人生は始まったばかりだ。自分の周りには、前述した諸先生方がいる。今はまだがむしゃらに前へ進もう、いつかその過程で見えるその先を信じて。